作成日：2026 年　9 月　5 日

研究協力のお願い

昭和大学藤が丘病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

低侵襲肝切除術における Pringle maneuver の安全性・有用性に関する検討

１．研究の対象および研究対象期間

選択基準：

・2018 年 8 月から 2026 年 6 月までに藤が丘病院　消化器・一般外科で肝切除を施行した患者さん

除外基準：

・胆道再建や再肝切除で解析が不適格な患者さん
・2 期的切除や ALPPS 手術、IVC 置換術といった特殊手術を施行した患者さん

２．研究目的・方法

安全な肝切除術を遂行するためには肝実質切離中の出血のコントロールが必須であり、肝への流入血を遮断して出血をコントロールの代表的な方法として Pringle maneuver という方法があります。この方法は出血コントロールには極めて有効な手技ですが肝組織に一定のダメージが懸念される場合があります。一方、近年では腹腔鏡下手術やロボット手術といった低侵襲手術が広く普及し肝切除も低侵襲手術で行われる頻度が増加しています。低侵襲肝切除術では開腹での肝切除に比較して、術操作の難しさから Pringle maneuver による流入血遮断時間が延長するといった問題があります。このため低侵襲肝切除における長時間の Pringle maneuver の安全性を評価することが重要です。そこで本研究ではこれまで当院で肝切除術を受けた患者さんを対象として、臨床諸因子や短期成績を診療録をもとに検討し、とくに開腹手術と低侵襲手術を比較することで低侵襲肝切除における Pringle maneuver の安全性、有用性を明らかにすることを目的としています。

３．研究期間

昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから 2028 年 3 月 31 日まで

４．研究に用いる試料・情報の種類

研究対象者背景：年齢（生年月日）、性別、体重・BMI

原疾患：診断名、腫瘍個数

原疾患の治療：手術術式、病理組織学的検査所見、手術時間、術中出血量、気腹時間、肝阻血時間、切

除肝重量、切離面積
術後合併症：有・無、合併症名
在院日数
既往歴：(同意取得時までに治癒した疾患）有・無、疾患名
また、臨床検査ならびに CT 画像に関する下記のデータをあわせて収集します
血液学的検査：赤血球数、ヘモグロビン量、ヘマトクリット値、白血球数、白血球分画、血小板数
血液生化学検査：TP, Alb, AST (GOT), ALT (GPT), Al-P, LDH, γ-GTP, 総ビリルビン、直接ビリルビン、BUN, クレアチニン, 総コレステロール, Na, K, Cl, CRP, プロトロンビン時間、ヒアルロン酸値、CEA, CA19-9, AFP, PIVKA-II, DUPAN-2
血清学的検査：HBs 抗原、梅毒検査、HCV 抗体、HIV 抗体
画像検査：腹部 CT 検査
上記の調査項目は全て電子カルテよりその情報を取得します

５．外部への試料・情報の提供

該当いたしません

６．研究組織

	所属	職名	氏名
研究責任者	医学部外科学講座消化器・一般外科学部門 藤が丘病院消化器・一般外科	医師・教授	田中　邦哉
分担研究者	医学部外科学講座消化器・一般外科学部門 藤が丘病院消化器・一般外科	医師・助教	高橋　裕季

７．お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：
所属：昭和大学藤が丘病院消化器・一般外科　　氏名：田中邦哉
住所：横浜市青葉区藤が丘 1-30　　電話番号：045-971-1151（内線　2017）